



多幸を祈り、一気に 「金盃披き」に約100人参列

中尊寺で1月8日、新年恒例の「金盃披き」が4年ぶりに行われ、町内外から約100人が参列しました。金盃は大(3.5合)、中(2.5合)、小(2合)の3種類あり、すべて飲むと末広がり8合となることから、縁起が良いとされています。今回は感染症予防のため、奥山元照貫首や青木町長ら代表者が金盃、ほかの参列者は各自の升を使い、注がれた清酒を飲み干し、今年1年の幸福と安寧を祈りました。



健全育成、福祉向上に役立てて 平泉ライオンズクラブが学童などに寄付

児童の健全育成や障がい者の福祉向上に役立ててもらいたいと、平泉ライオンズクラブ(鈴木穂嘉実会長)は、会員が育てた野菜の売上金を町内の学童クラブ2カ所と障がい者支援施設「黄金荘」に寄付しました。鈴木会長ら役員が令和5年12月11日に3施設を訪れ、このうち長島小学校内のたばしね児童クラブでは、鈴木会長が代表児童に目録を手渡し「不足しているものに寄付金を活用してほしい」と期待しました。



歴史を学び、道具に触れる 田頭讚念仏の体験講座

【1頁に本記】田頭讚念仏は約250年前に長島地区で始まったとされ、初盆の家などで念仏を唱え、太鼓を鳴らしながら舞を踊って供養する伝統行事。講座では、児童が問題形式で田頭讚念仏の歴史や活動を学び、花がさや太鼓、鐘に触れ、その魅力を体感しました。浅利会長(19区)は「若い人に担い手になってほしい」と期待。長島小6年の佐々木未虹さん(20区)は「踊りなどを覚えて地域の人に披露したい」と意気込みました。



蘇民袋の争奪戦も復活 「二十日夜祭」4年ぶりに

毛越寺で1月20日、常行堂二十日夜祭が行われ、新型コロナウイルスの影響で見合わせていた献膳行列や火たきのぼり、蘇民袋の争奪戦が4年ぶりに復活。下帯姿の男衆は勇ましいかけ声とともにたいまつを激しくぶつけ合い、大寒の夜が熱気に包まれました。蘇民袋の取り主となった石川裕希さん(7区)は「出たくても出られなかった人たちの思いを胸に参加した。健康第一でこの1年を過ごしたい」と語りました。



家族や町長らの祝福受ける 千葉てる子さんが100歳迎える

町内出身で一関市赤荻の住宅型有料老人ホーム「ケアビレッジ一関」に入居する千葉てる子さんは令和5年12月26日、100歳の誕生日を迎えました。三女の赤松俊子さん(同市)ら家族や施設職員の祝福を受け、青木町長からは花束や記念品が贈られました。千葉さんは戸河内地区出身。20歳ごろ結婚し、飲食店に勤務しながら子4人を育て、孫21人、ひ孫17人に恵まれました。



町職員を石川県に派遣 能登半島地震の被災地で住家被害認定調査

能登半島地震で被災した石川県能登町の支援のため、町が職員を派遣することとなり、出発式を1月24日に役場で行いました。25日から2月1日まで、り災証明に関する住家被害認定調査に従事します。当町が派遣したのは、税務課主事の佐藤滉斗さん。役場での出発式で青木町長の激励を受け「被災地の方は不安がたくさんあると思う。普段の家屋調査の経験を生かし、少しでも力になれるよう尽力する」と決意しました。



親子で協力して年始の準備 12区公民館でミニ門松作り

12区公民館で令和5年12月27日、ミニ門松作り(12区、地区PTA主催)が行われ、地区内の小中学生とその保護者らが、新年を迎える準備として取り組みました。約20人が参加。鈴木節郎区長の手ほどきを受け、土台の容器にこもを巻いて縄で縛り、3本の竹を立てて木片や砂を入れて固定。周りにマツやナンテンを飾り付けました。平泉小学校2年の佐藤風希さん=写真左=は「こもを巻くところが難しかった」と語りました。